

平成19年6月25日

第30号

# 素流協 News

平成19年6月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6 電話 019 (652) 7227 / FAX 019 (654) 8533

## 「平成十八年版森林・林業白書」

### に見る木材流通

本年五月に平成十八年版森林・林業白書が閣議決定され、「健全な森林を育てる力強い林業・木材産業を目指して」と題して刊行された。

白書では、本論前に平成十八年度農林水産祭で天皇杯を授与した陸前高田市の気仙木材加工協同組合連合会が佐々木英一理事長以下役員一同の写真入りで掲載されている。

以下、白書における「木材流通」についての記述内容を紹介する。

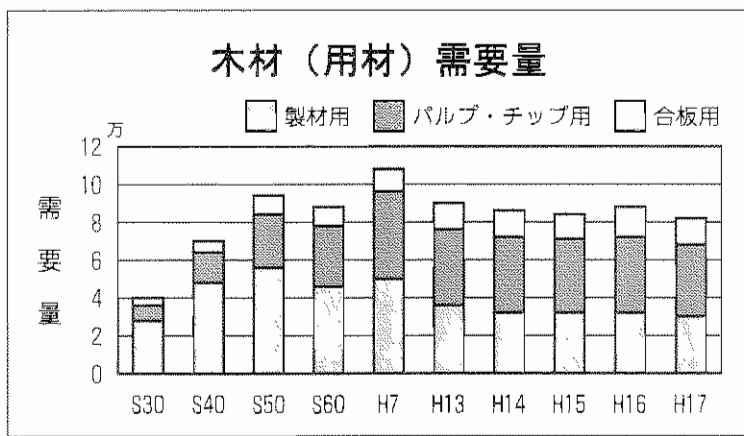
#### ◇わが国の木材需要

木材の需要は、昭和三十年代、四十年代の高度経済発展により建築用、製紙用ともに増大を続け、昭和四八年には過去最高の一億一七五八万立方メートルとなった。

昭和五十年代以降、昭和五六年から六一年の時期を除けば、平成

九年まで一億立方メートルの需要量で推移してきた。

近年は、製材用材、パルプ・チップ用材の需要減少により、平成十四年以降九〇〇〇万立方メートルを下回る状況にある。(図1)



#### ◇製材用材の需給動向

製材用材は昭和四十年代後半には木材需要全体の六〇%以上を占めていたが、その後、長期的減少傾向を示し、平成十七年には全体の三六%となっている。

製材用材の需要は新設住宅着工数の影響を大きく受けているが、近年は住宅着工数が同じであっても、木造住宅が減ってきていること、木造軸組工法以外の木造住宅が増加してきていることから、製材用材の需要は減少してきている。

#### ◇パルプ・チップ用材の需給動向

パルプ・チップ用材の需要は、平成十年以降は製材用材の需要を上回り、平成十七年には木材需要全体の四四%を占めている。

この需要は、紙生産量の動向の影響を大きく受け、パルプ・チップ用材の供給は、昭和四〇年から平成八年まで増加傾向で推移してきた。しかし、近年は、紙生産の頭打ちと古紙利用の増加から、パルプ・チップ用材の供給が減少傾向となっている。

◇合板用材の需給動向

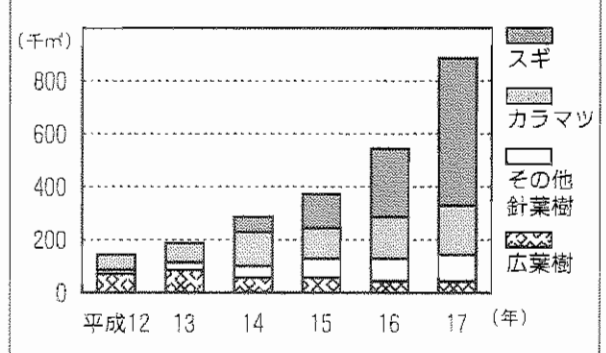
合板用材の需要は、昭和四八年の一七〇〇万立方メートルをピークとして、五十年代後半には一〇〇〇万立方メートルまで減少したが、近年は、一三〇〇万立方メートルで推移しており、木材需要全体の約十五%を占めている。

平成元年以降における製材用材の需要の減少割合に比して、合板用材の減少割合が小さいのは、用途が足場板やコンクリート型枠から住宅構造用へと広がりを見せているためと考えられる。

更に、近年は国産材の針葉樹を合板用材として利用する動きが顕著であり、特に、平成十四年以降スギの合板用材としての供給量が大きく伸び続けている。

このように、合板分野で国産材利用が進んでいる理由としては、加工技術の向上により小径木の効率的利用が可能となったことや、北洋材が中国向けに移行する中で国産材が競争力を持ち始めたことが上げられる。

国産材の合板用丸太供給量



◇回復してきた国産材の供給量と供給体制

国産材の供給量は、昭和四二年の五二七四万立方メートルをピークに毎年減少を続け、平成十年以降は二〇〇〇万立方メートルを下回っている。このため、木材の自給率は昭和四四年には五〇%を切り、平成十一年には二〇%を下回った。

しかし、近年は平成十四年の一六〇八万立方メートルを底に増加に転じ、平成十七年には一七一一八万立方メートルまで回復し、自給

率も二〇%台となった。

この増加の要因は、製材用材と合板用材の増加によるものであり、特に合板用材の増加が増加量全体の約半分を占めている。国産材供給量の増加が、自給率の増加を伴っていることは、国内市場における国産材ニーズの高まりを示すものであり、国産材の需給動向に今までと異なる動きが現れているといえる。

原木の供給者は依然として小規模、零細な者が多く、原木の流通、加工が小規模分散的に行われることから、国産材の安定的な供給を困難にしている。

しかも、国産材の供給は少量多段階な構造の下で行われており、最終需要者である住宅産業側の量、品質等に対するニーズをすべての関係者が正確に共有することは困難である。

このため、商流においては、原木供給側と原木利用側の間で需給情報等を仲介するようなシステム構築を図り、物流においては、

伐採された原木の製材工場への直送を一層進めることなどにより、流通の効率化を図ることが必要である。

国産材の価格は、伐採され、加工されて製材品として流通するまでに三つの段階で形成される。山元立木価格、丸太価格、製材品価格である。

製材品価格の決定が立木育成段階からの付加価値の積み上げで行われるのではなく、逆に住宅価格や外材製品等から各段階の経費が差引かれて山元立木価格が決定されている。

その結果、製材品の価格の下落が、山元立木価格の下落という形で現れる。

このため、森林所有者が長期的に経営意欲を持てるよう、素材生産、流通、加工の各段階での低コストや効率化を図って、林業・木材産業の競争力を向上させ、林業の採算性の向上や国産材の安定供給へ結びついていく流れを生み出していくことが必要である。

ヒロシの独白

# “国産材時代が到来するか”



最近、「待望する国産材時代」と

か「国産材新加工時代が来る」と

いった言葉が林業関係者の間を飛

び交うようになった。

長く続いた林業低迷期からようや

く脱して、この一年ほど前からわ

が国の林業・木材産業の前途に薄

明るさを感じられるようになって

来たことが反映しているのではし

う。

また、戦後植林された人工林が

どんどんと生長を続けており、利

用可能な木材資源が増大している

ことから、「国産材時代の到来」と

一種の期待をこめた声が上がって

いるのであろうと考えます。

さらには、平成十八年九月、林

野庁が策定した新しい「森林・林

業基本計画」において十年後の平

成二七年には現在（平成十六年）

の実績（一七〇〇万立方メートル）

から三五%増の二三〇〇万立方メー

トルの国産材供給量を見込んでお

り、政府自体も近い将来には「国

産材時代が来る」と予測している

のであります。

このように予測する根拠は、先

に述べた人工林資源の充実や、こ

れまで比較的輸入が容易であった

外材が種々の理由から入りづらく

なったこと、全国の各地域におけ

る新しい加工技術を駆使した製材、

集成材、合板の分野で国産材を原

料とした大型工場が新設・増設さ

れていることなどであります。

ところで、このように国産材供

給量が増えるとしてそれに対する

需要があるのかということになり

ますが、わが国の過去十年を見て

も年間木材需要量は九千万立方メー

トル（一億立方メートルであり、

年間二三〇〇万立方メートルの国

産材供給量は年間総需要量の三分

の一にも満たないのであります。

すなわち、わが国における木材需

要に対する供給量は圧倒的に外材

によって占められているのであり

ます。

したがって、今後は外材に占め

られていた木材供給量を国産材で

逆代替しようということでありま

す。

このように国産材が復権したと

きのわが国の木材産業界のイメー

ジはどのようなものでしょうか。

現在国産材復権のきざしを示す

動きが幾つか顕在化してきており

ますが、製材でいえば、原木消費

量が年間一〇万立方メートル以上

の規模の工場で、二十四時間稼働

で高速加工機械を駆使し、乾燥・

プレーナー掛けを基本として、工

程の中に丸太の合理的な用途選別

機能を組み込まれ、柱・梁・羽柄

材はもとより、高次加工原材料と

して集成材・積層材用のラミナ、

家具・建具用材、床材、内装材・

外装材に至るありとあらゆる木質

材料を製材する工場であります。

このような工場では、もうこれ以

上使えないという工場残材までも

木質エネルギー資源として利用し、

樹皮についても堆肥原料とするの

はもちろんのこと、断熱用、豊床

用、外構用パネル材料として利用

技術開発が進んでおります。

また、合板や集成材などいわゆ

るエンジニアードウッドと呼ばれ

ている高次加工木材製品を製造す

る工場では、これまで主として外

材を原料としていたのがこの三、

四年の間に徐々に国産材にシフト

してきており、この傾向は今後も

続くと予想されます。これらの工

場においては、原木に対する樹種・

太さ細さ・短尺材・曲がり材等に

ついての規格に関する許容限度が

広く、原木も大量に使用します。

さらに国産材についての加工技術

が進んでおり、LVL、OSBと  
いった新しい製品群が続々と出て  
きております。

ましよう。今現在のわが国の林業・

な広がりを見せると考えます。

量に計画的、安定的、長期継続的

木材産業の動きを見ますと、九州、  
東北、北関東地域を拠点として、

変化が進展するとき重要な役割

に原木を流通させるかが鍵となる  
でしよう。

先に述べた「森林・林業基本計

国産材の流通は少量・多品目供給

を担うのは、国産材についての流

林業界の結束力の見せ所とも言

画」が目標とする姿、国産材利用

から大量多品目・安定供給に変わっ

通機能であります。国産材原木の

えます。

量の目標数値は達成されるであり

ていき、この動きは全国に波動的

生産者から消費者までにいかに大

健康の秘訣は何かと聞くと、一日の仕事が終わってから夜に家族三代と一緒に話して話しかうこと

であり、晩酌のビールと日本酒が格別美味いそうである。

「今、この地域は木工団地で活

## 指差し呼称の励行を

### 「伐倒方向、ヨシ！」 「退避場所、ヨシ！」

昨年は全国で五五件の林業での

死亡災害が発生し、今年は五月末で既に二〇件が発生しています。

それらの約六割が伐採作業中での事故となっています。

#### ◎指差し呼称は

危険を伴う作業の要所要所で集中力を高め、「うっかり、ぼんやり」などの集中力の限界を超えた事故を防ぐのに非常に有効です。

#### 指差し呼称の基本型

一、目は・・・確認すべきことを



表 - 鉄道総合技術研究所での実験結果

方法	平均押し誤り回数 (誤りの発生率)
何もしない	2.38 (100%)
呼称だけ実施	1.00 (42%)
指差しだけ実施	0.75 (32%)
指差しと呼称を実施	0.38 (16%)

しつかりと見る。

二、腕・指は・・・左手は横から

腰に当てる。右腕を伸ばし、右手の指を伸ばして対象を差し、

気づいている。林業でもって飯が食えるようになって欲しいし、若い人たちの仕事の場となって欲しい

「伐倒方向」といい、その後、

耳元まで振り上げて、「ヨシ！」で振り下ろす。

三、口は・・・大きな声で、「伐倒方向、ヨシ！」などと唱える。

四、耳は・・・自分の声を聞く。

#### ◎指差し呼称の項目

何を呼称するかは、それぞれの現場で話し合って、必ずこれだけはやろうという項目を絞ります。

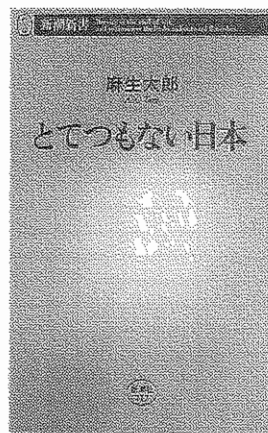
## 落穂拾い

ニートとは、学校にも行かず、仕事もせず、専門的な職業訓練を受けていない人間をいう。内閣府の推計(二〇〇五年一月現在)で、全国で約八五万人、二〇一五年には一〇〇万人を突破すると予測している。

世間一般的に、このニートの存在を親に寄生した「困り者」と見

い。そのことを孫たちに示して行きたい。」と熱く語ってくれた。

それがちである。ところが、最近、衆議院議員で現外務大臣である麻生太郎氏が『とてつもない日本』という題名の新書を出したので本屋で目にし、購読したのであるが、



その中で「ニートも、捨てたもんじゃない」という項を設けて、いろいろとニートについて述べているのだが、「ニートはニートのペーすで生きていくことを認めてもいいのではないか。あれもスローライフの一種だ、くらいの余裕を持つてみることも、たまには必要ではないだろうか」といつている。

詳しくはこの本を読んでもらうしかないが、この項の最後に、「団

冗談欄

更年期は、車の車検期

塊「「しらけ」「新人類」「おたく」などと十把一からげにされ、伝統的な日本を破壊する「今時の若者」と嘆かれた世代の作ってきた文化に、現在アジアのみならず世界中が熱いまなざしを送っている。

そう考えると、ニート世代が新しいものを作り出してくれる可能性は大いにあるのではないかと縮めているが、この先生はなかなか頭が柔軟である。一読を薦める。

更年期障害は、かつては女性だけの問題であったが、現在は男性でも取上げられるようになった。

服用体験談も載っている。チラシをつぶさに読んでみるが、効能がよく判らない。でも、表題や見出しを見ると、効果ありそうである。

更年期障害自己チェック表というものがあり、男性は十六項目で、ほてりや多汗、息切れ、疲れやすいなどのほかに、性欲に関する設問が四項目もある。程度の強い該当項目が二つ以上ある場合には病院での受診を勧めている。

「スッポンとの出会いが私の人生を変えた」、「効き目が早い」、「いつまでも遅しく」、「私はスッポンのおかげで女房と仲がよい」、「疲れ知らず、体はポカポカ」、「やっぱり、スッポンはすごい」、「六十二歳ですが、まだまだ現役で頑張ります」、「スッポンは『第二の人生』の伴侶、一生手放せません」

温泉地で育てたスッポンの粉末錠剤のダイレクトメールが来た。

平成19年5月分の販売実績

全体的に見ると、会員生産の合板用出荷が回復し、約10,400㎡となりました。システム販売は750㎡と先月と同程度の出荷となっております。

会員生産のものは、出荷先別では、ホクヨープライウッド(株)60%、北日本プライウッド(株)40%、また、樹種別では、スギ48%、カラマツ18%、アカマツ34%となっており、昨年同期と比較すると、材積は約1900㎡増加し、比率は出荷先別では近似しているが、樹種別でスギの割合が約10ポイント減少し、その分アカマツの割合が増えている。

合板用以外の出荷は100㎡と少なくなりました。

累積出荷量の年間計画量に対する達成率は13%となり、5月になって計画どおりに回復している。

(㎡, %)

区分	出荷者	樹種	長級	販売先			計	累計	割合		目標達成率	19年度計画量
				ホクヨープライウッド(株)	北日本プライウッド(株)	その他			長級別	樹種別		
合板用	会員生産	スギ	2.0	1,149	2,053		3,201	5,976	64.3			
			2.1	217	219		436	874	9.4			
			4.0	654	656		1,310	2,442	26.3			
			計	2,019	2,928		4,948	9,293	100.0	47.6		
		カラマツ	2.0	1,596	349		1,945	3,410	94.5			
			2.1	57			57	57	1.6			
	アカマツ	4.0	37	11		48	142	3.9				
		計	1,691	359		2,050	3,609	100.0	18.5			
		2.0	2,425	673		3,098	6,036	91.3				
		2.1	92	239		330	573	8.7				
	計	2,517	912		3,429	6,610	100.0	33.9				
	システム販売	スギ	2.0	321	279		600	1,013	66.2			
カラマツ			2.0	152	16		168	435	28.4			
アカマツ			2.0	0	0		0	83	5.4			
計			473	295		768	1,531	100.0		7.7	20,000	
計		6,701	4,494		11,194	21,042			14.5	145,000		
その他	スギ	2.0			77	77	362	37.9				
		カラマツ			25	25	593	62.1				
		アカマツ			0	0	0	0.0				
		計			102	102	955	100.0		4.8	20,000	
合計		6,701	4,494	102	11,297	21,998			13.3	165,000		